

特集

滝澤光樹

新社長に聴く

平成24年6月22日に

代表取締役社長に就任した滝澤光樹に

会社のこと、青春時代のこと

いろいろ聴きました。



特集

滝澤光樹

新社長に聴く

社長に就任して4カ月経ちましたがどのような毎日でしたか

7月から9月にかけては多くのお客様さまを訪問し、ご挨拶させていただきました。あわせて、各拠点での社員との交流、現場視察を通して、お客さまに最善のサービスを提供するため努力をしている社員の姿に感動し、この姿がインテックの大切な基盤であることをあらためて実感しました。

全国のお客さまを訪問してどのような印象を持ちましたか

まずは、お会いした方々が、それぞれ個



性はありますが、皆さんが良きお人柄であることに、やはり感動しました。同時に、そのような方々とお付き合いさせていただいていることは、担当する役員、社員が誠実に対応していることの表れであるとうれしく感じるとともに、さらに良いサービスの提供に努力しなければとの強い思いを持ちました。

お客さまに、より満足していただくために、インテックにはどのような課題がありますか

今までは、お客さまのシステム部門がシステム化計画を策定され、インテックはそれに沿えるように努力してきたと言えます。しかしながら、この不透明な社会情勢の中で、お客さま自身も先が読みにくい時代になってきました。

だからこそ、インテック自身がお客さまの業界動向や、お客さまの先にある顧客が求めていることを今まで以上に理解し、お客さまの経営改善に資する提案を先んじて行つてゆかなければならない時代に今、入ったと考えています。

また、インテックだからこそできるサービス、インテックにしかできないサービスを今まで以上に多く開発して、単なる価格競争やサービス品質競争を一歩飛び越えた、付加価値提供企業になることを目標にしたいと考えます。



創業者の西泰蔵社長、金岡幸二社長の写真と並んで

一方、変わらない点は、新しいことに挑戦する先取の気質がDNAとして生き続けていることです。単なるソフトウェア開発やシステム運用の受託を主たる生業とせず、常にインテックにしかない、インテックにしかできない商品、技術、サービスを生み出す努力を続けています。

インテックとの巡り合い

インテックに入社した動機は

小さいころから音楽が好きで、音楽関連企業の入社試験を受けましたが、見事に不合格となりました。特段、大志を持っていたわけではありませんので、大学が推薦する富山の企業の中で、規模の大小に関係なく、学んだことが生かせ、自分が飛躍できそうな企業を探す中で、インテックと巡り合いました。

学生時代は

どんな音楽活動をしていましたのですか

小学校から中学校前半までは、ボーイソプラノの美声で(笑)合唱団に入っていましたので、文部省唱歌やクラシック系の音楽しか知りませんでした。それが、中学校2年の時だったと思います。が、「サウンド・オブ・ミュージック」と

「エレキの若大将」の映画を見て新鮮な感動を覚え、ポピュラー、ジャズ、ロックへと好みが拡大しました。特に「エレキの若大将」の音楽に大きな衝撃を受け、母親に高校の入学祝いにとエレキギターをせがみ、エレキが不良と見られていた時代の中でバンド活動を始めました。大学に入っても軽音楽部に所属し、ジャンルにこだわらない音楽活動を楽しみ、ダンスパーティー、ピヤガーデン、成人式などにお呼びがかかるようになっていきました。

入社後

どのような仕事をしていましたか

入社後すぐに東京に赴任となり、製造業のお客さま先で物流システムの開発に従事し、その後、コンピュータメーカ

今も変わらない先取の気質

入社したころのインテックはどのような会社でしたか

73年の入社時は、創業後9年を経過していて、情報処理サービスが認知され始め、オンラインサービスも出始めた時代でした。社会は高度成長期から安定成長期に変わろうとしている中で、創業のビジョンである「コンピュータユーティリティ」の実現に向け、迷うことなく走り出したところでした。ですので、多くの新しいことに挑戦する意欲を燃やしていた、そんな会社だったと記憶しています。

今と比べて

違う点、同じ点は何でしょうか

その頃はコンピュータビジネスの創生期であり、ITを積極的に取り入れる企業が出始め、御用聞き的営業でもお仕事を頂戴できる時代でした。また、東京に進出を果たし、首都圏での事業拡大に取り掛かり始めた時でもありました。現在はインテックグループとして総売上1000億円を超える規模に成長し、企業としての信用力が高まり、開発や運用の提供力も格段に高まりました。

でOS開発を経験しました。その時、社内には技術論文誌「研究紀要」があり、今まで仕事を通して感じ、学んだことをまとめて投稿しました。お客さま先で仕事をする社員はなかなか目立ちにくい中で、その論文が当時の役員などの目に留まったのだと思いますが、技術スタッフとして異動を命ぜられ、それから約十数年、通信事業に深くかわるることになりました。

転機は突然

通信ネットワークとの関わりで

特に思い出に残っているエピソードは

電電公社の民営化を機に本格的に通信事業に参入するため、当時の米国GTEテレネット社から技術導入を決めた時のことです。その技術を習得する担当者一人に選ばれました。1981年、30歳



初めての海外出張(空港にて)

滝澤 光樹を語る

長くおつきあいいただいている皆さまから
思い出や激励の言葉をいただきました。



私は入社以来28年間、インテックに開発パートナーとしてお世話になっておりますが、滝澤さんとはインテック「コミュニケーションズ」設立の際に初めて一緒に働かせていただきました。

「堅実・実直・安心安全(すみません、私の印象です。生保にピッタリです)」を旨とするインテックのS.Eの方々と机を並べた私には、常に斬新かつ柔軟「プラス志向」の滝澤さんがとても新鮮でした。

次々と新規事業を立ち上げられる姿は大変格好良く、そのルックスからも勝手に「インテックの島耕作」と呼んでおりました。

以来滝澤ファンとなり、毎年、宴席をご一緒させていただき、「こんな事業ができたらいいですね」「業界をこう変えたいですね」といった夢を語り合っております。(一つも実現していません)

IT業界に相応しい、格好良くフランクで前向きな滝澤さんが社長に「就任されて保険業界人としても大変嬉しく、心より応援させていただきます。

宴席での夢、一つは実現させましょう！



日本生命保険相互会社
執行役員
矢部 剛氏

斬新・柔軟かつプラス志向

ハートを射ぬく「射長」に



コクヨS&T株式会社
代表取締役社長
森川 卓也氏

拝啓、ご多忙の候、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

この度の社長ご就任、誠にめでたくございます。

初対面の10年前もそして今現在も、相手の地位や立場に分け隔てない誠実な対応や、仕事への熱心で真摯な姿勢は全くお変わりなく、接する度に私自身多くのことを学ばせていただいております。この場を借りて感謝申し上げます。

ご自身の仕事に関係なくとも、少しでも相手の役に立てばとの思いで、多くの有益な情報をご提供くださり、惜しみなく滝澤人脈をご紹介いただきました。社内でも共に仕事をさせていただいたメンバーは皆、その魅力的なお人柄から滝澤ファンになってしまっています。

50代になられてからのゴルフチャレンジとその後のご上達ぶり、周りに勇気と希望を与え、また努力の大切さを率先垂範されておられます。

「社長業は謝長業だよ」と冗談をおっしゃっていただきましたが、これからもお客様、社員の皆様、取引先の皆様、そして株主の皆様へのハートを射抜き続ける滝澤射長であられますように。そして、時には美味しいお食事、旨いお酒、おいしい会話にお付き合い下さい。どうぞ、ご自愛の上、ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

滝澤様とはエクシング立ち上げの前から、20年以上にわたりお付き合いをさせていただいております。インターネットがなかった当時から、いろんな人脈を通じた生の情報をお持ちで、ネットワークの将来像などを技術素人の私にも理解しやすいように丁寧に解説いただいたことを記憶しております。

インテックとの付き合いは1986年に開始したパソコンソフト自動販売機、「武尊(タケル)」での協業が皮切りです。93年初頭には通信カラオケ「ジョイサウンド」の集中管理システムを開発いただき、これをエクシングが全国のカラオケボックスに販売して一大ブームを巻き起こしました。さらに広域に展開できないかと、金沢の温泉地域で実証実験を行い、海外でもシンガポール・ロムと共同で実証実験を行いました。

シンガポール出張の際には滝澤様にも同行いただき、得意の英語でエクシングの事業を先方にプレゼンいただき大変助けていただきました。また、機内から現地での懇親会までたくさんお酒を召し上がられても二日酔いには全くなされず、世の中には凄い方がいらっしゃるのだと感服いたしました。

以来、当社の事業に対し新しい情報をタイムリーにご連絡いただいております。感謝の気持ち一杯です。ますますお忙しくなりましたが、たまには得意のギターをジョイサウンドで演奏されてストレスを発散いただければと思います。



株式会社エクシング
取締役
中谷 幸夫氏

幅広い人脈と情報で ICTビジネスを開拓

忘れられないひとこと 「心をひとつにして」



一般社団法人
テレコムサービス協会
元事務局長
久和田 泰之氏

今から10年ほど前のこと、滝澤様がインテックの常務取締役のころでした。当時、私は電気通信事業者団体である「テレコムサービス協会」でお世話になっておりました。

この協会は、電気通信事業分野の活性化と公正競争の実現等を目指し、活発な活動を行っておりますが、当時経営面で大変厳しい状況にあり、「経営再建」が「自然解散」かの二者択一を迫られておりました。

協会会員で構成される委員会が頻りに会合を開き、対策の検討を重ねてきましたが、中心的な立場にありました滝澤様からひとこと「心をひとつにして取り組めば必ず目的は達成できるはず」との発言。それから約1年間、厳しい「経営再建」の道を選択し、まさに全会員が心をひとつにして準備を重ね、それを実現いたしました。その間、私どもは事務局の一員として徹夜、深夜帰りの連続でもありましたが、そういう私どもに、励ましや方向付け、ときには仕事へのヒントをそれとなく、ひとこと言葉で置いていって下さり、困難に立ち向かう力を与えてくださいました。今思うに、それは秘めたる深い洞察力と行動力があつてのひとことでは...と考えております。

「心をひとつにして...」それは、私にとって生涯忘れることのできないひとことであり、今も私を支えてくれている言葉ですが、このような魅力ある滝澤新社長様のもとで能力を発揮できる社員の皆さんを羨ましく思っております。



滝澤 光樹 新社長に 聴く



米・オートバイテル社との合併事業のため渡米(1999)



インテック コミュニケーションズ設立にあたり
豪・テルストラ社との調印式(シドニー 1998)

の時でした。飛行機に乗るのも初めてでしたが、パナムの国際線で米国バージニア州へ向かいました。そこでアパートを借りて3カ月間の技術移転のトレーニングを受けました。翌年はボストンの郊外でホテル住まいし、3カ月を技術習得のために過ごしました。この経験がインテック人生の中での最も大きなターニングポイントであったと思います。ブロークンでもためらわず話せばなんとか通じると感じた英会話との出会いもありました。また、バス停でなかなか来ないバスを待っていた通勤途中、車が目の前に止まり「乗ってゆけ」と誘われたこともありました。アメリカの懐の深さを感じ、目を大きく見開かされた体験でした。

英語はどのように身につけたのでしょうか

いまだに身につけているとは思いませんが、初めて米国に向かう前に2カ月間英会話学校に通いました。しかし、それでもものになるはずがありません。現地でも、週2回英会話学校に通いました。夜は日記を英語で書き、明日会話で使おうと思う単語や言い回しを決め、翌日に実践するということを繰り返しました。その後は、海外出張に行くたびに通訳を買って出たのが良かったのかもしれない。

企画の仕事、役員になってから 印象に残る出来事は

すべての活動が良い経験だったと思います。国内でのM&Aに加え、ベルギー、オーストラリア、アメリカ、韓国、中国など、各国の企業との合併事業や提携を通じて、それぞれの文化・ビジネススタイル、人の多様性など、多くのことを学び、気づかされたことが、おそらく自分の肥やしになってきたのだと感謝しています。

インテックならではのサービスで お客さまの発展に貢献したい

新社長としての抱負を 聴かせてください

事業環境の不透明感がまだ続いています。その中で収益を伸ばすためには、今まで通りでは難しいとは思いますが、感じることもだと思えます。あえて「不易流行」という言葉を使いますが、変えるべきものと変えざるべきものを現場目線で見極め、変えるべきものは慎重かつ大胆に具体化につなげます。また、社員が今まで以上に元気に、やる気が出るような土壌をつくる努力もしていきます。

そして、より強固な経営基盤を次世代に引き継ぐことを目指します。

最後に、お客さまにメッセージを

2014年、インテックは創立50年を迎えます。これもひとえに株主やお客さまに支えられてきたものであり、改めてお礼を申し上げます。インテックの存在価値を今後も評価していただくには、社員一同が「変わる」努力を行い、時代の動きを先取りして、他社には無い「インテックならではの」サービス提供を推し進めることが必要であると考えています。その結果として、最も大切なお客さまの発展に少しでも寄与できることが、インテックの矜持でもあり、喜びでもあるからです。

滝澤 光樹(たきざわ こうじゅ)	
1951年	生まれ
1973年4月	株式会社インテック入社
1999年6月	同社取締役 企画担当 企画室長
2001年6月	同社常務取締役 社長室長
2007年6月	株式会社インテックホールディングス 取締役副社長 事業企画・IR担当
2008年4月	ITホールディングス株式会社 取締役副社長
2011年4月	株式会社インテック 取締役副社長 公共ソリューション事業本部担当 金融ソリューションプロダクト事業本部担当 BPO事業本部長
2012年6月	同社代表取締役社長